

幼稚園になれにくい子ども

北岡 順子



期待と不安に小さな胸をふくらませながら今年も新しい園児が

幼稚園の門をくぐったことでしよう。子どもたちが入園するとい

うことは生活の一大変化を意味します。今までの生活は家庭を中

心に営まれ、母親をはじめ肉親の中でわがママが認められていま

した。友だちも近所の二、三人と遊ぶのがせいぜいといった程度

でした。ところが幼稚園は名まえも顔も知らない、同じ年齢の友

だちが大ぜい集まってきました。しかも、母親とは違ったなじ

みのない先生がいろいろの指導をしてくれます。また、周囲の環

境も、広い運動場、保育室、遊戯室、めずらしい遊具、運動具が

用意されており、家庭や近所のものとは非常に違っています。こ

のように違った環境の中で毎日一定の時間家庭をはなれて生活し

なければなりません。以上のように、今までの家庭中心の生活と

は、質的に違った全く新しい環境に足をふみ込んだのが入園とい

うことになります。

このような新しい環境に出あった時、子どもたちはどのような

態度をとるのでしょうか。新しい場面に對した場合、そこにコ

ーピング力とよばれる能力が要求されます。L・B・マーフィー

によりますと、コーピング力とは、「新しい場面や挑戦に向かっ

た時、それらに立ち向かおうとする力」であるとされています。

したがって単なる適応とは少し意味を違えています。適応は意識

しない反射的反應や自律的反應によつてなされる結果も含むのに

對して、コーピングはその過程を、意識的に努力する過程を強調

して用いられます。

このコーピング力、方法はそれぞれの子どもによつて異なつて

います。新しい場面に對した時、ほとんどの子どもはその状況を

理解する時間を必要とします。ですから、ある子どもは自分でその状況を見わたして、何をすればよいかを見きわめて、よろこんでその行動に入っているだけです。また、ある子どもはその状況が自分の能力を超えたものであると認めると、積極的におとなの助力を求めます。つまり、先生に助言を求めたり、身体的接触を求めたり、はげましのことを求めたりします。ある子どもはいつまでも立って見つめるだけの段階にとどまっています。また、泣き出してしまったり母親とはなれられない子どももいます。幼稚園になれにくい子どもとは、このように新しい場面に對するコーディング力の弱い子どもとしてとらえられます。

このコーディング力の強さ、弱さは何に起因しているのでしょうか。コーディング力の弱さに影響を及ぼすと考えられるものについてみてみますと、そのひとつは知能の発育のおくれです。知能のおくれがすぐにコーディング力の弱さを意味しませんが、やはりそれだけ新しい環境を認識する力が弱く、環境になれにくくなります。友だちといっしょに遊べない、自分の意志をうまく先生にも伝達できない、といったことでどうしても幼稚園になじみにくくなっていきます。また、社会生活能力のおくれも影響します。日常生活に必要な動作が他の子どもに比較して非常におくれている場合、ひとりで靴をぬいたりできないかかったり、ひとりでお手洗いに行けなかつたりすると、他の子どもに圧倒されてしま

って、幼稚園になれにくくなっていきます。また、運動機能に異常があったり、感覚器管に異常があったり、さらに身体的な疾患や小児精神病があったりすると、他の子どもと同じような行動がとれませんので同様の結果になります。

しかし、このような面における発育のおくれや異常がない場合にでも、幼稚園になれにくいといった子どもがでてきます。このような子どもにとっては、新しい幼稚園での集団生活が今までの生活経験とは余りにもかけはなれすぎている、どうしていいの全く見当がつかないでいるのです。

今までの家庭中心の生活では、甘やかされ、大事にされ、何でもおとなにやってもらう、おとなの言いなりになるといふばかりで、自分で行動する、自分の力でぶつかっていくということが全くなかったのでしょう。新しい場面に立ち向かっていく力は急に身につくものではありません。幼いうちから、幼ければ幼いなりに自分の力で新しい状況に立ち向かうことを学ぶ必要があるのです。ささいなことでも自分の力でやりとげたという経験、あるいは自分の力の及ばない事態に對してはおとなに助力を求めること、このような経験の積み重ねが必要とされます。

このような経験なしに、突然、母親からはなされ、幼稚園という全く新しい環境の中に放り出され、全く自分一人の力で行動しなくてはならない事態に至った時、その違いに驚きとまどい、ど

うしていいのかわからずおへやのすみじつと立っているだけ、泣きわめく、といったことになります。

母親との分離不安の問題について、L・B・マフィーは次のようなことを述べています。「四歳以上の子どもにおいては、母親としばらくの間だけはなれていることを理解すると、心配なしに母親からはなれる。子どもを圧迫する感情は、ただ愛情の対象物を失なうことによるだけではないことが推定できる。それは新しい状況に対する不安、母親がすぐにもどってくるという約束の効果を理解できない感情を含んでいる。……母親以外の他の人と満足すべききずなをもっていれば、子どもが他の満足すべき経験があつて早くから母親とはなれることになれていたら、母親との分離を含む新しい状況をより早く受け入れることができる、と推定される。」ですから、幼い時から、母親とだけ密接した関係を続け、子どもの人格を尊重しないでいると、母親以外の人の結びつきがなされにくいということができません。

幼稚園になれにくい子どもについてみますと、このように今までの生活のあり方、それぞれの子どものコピーンク力における個人差などが作用していると考えられます。ですから指導を考える場合、外面にあらわれた現象だけをとらえて、集団に入れない子どもに対しては同じような性質の子どもを特にグループにするの

がよいとか、泣いて母親からはなれない子どもに対しては無理にでも引きはなした方がいとか、そのまましておいた方がいいとか、そういった一般的結論は導き出せないし、たとえ結論づけても無意味なことになります。重要なことは、子どもの側から新しい状況になれようとする気持、努力がなされるようになることです。したがって周囲のおとなのできることは、子どもの側にその気持が起こるように、さらに起こってきたその気持を、うまく受けとめ、助力してやることだけでしょう。そのためには、幼稚園全体にあたたかいふんい気がただよっているようにすること、子どもに親しみやすい環境を設定すること、子どもの行動を余り規制しないこと、などが望まれます。

さらに、入園前の段階において、それぞれの子どもの背負っている生活歴をよく理解しておくことも必要です。また、家庭訪問するとか、一日入園などによって、子どもと先生との結びつき、母親と先生との結びつきを深め、少しでも親しみを増すように努力することも意味のあることです。特に母親に対して、入園までに少なくとも自分の身のまわりのことは自分でできるようにしつけること、幼い時から、ささいなことでも自分の力でやりとげる経験をさせることなどが、重要であることを理解してもらうことも大切なことです。また子どもがまだ見ぬ幼稚園に対して楽しみと期待が持てるように、決しておどかしなどによって恐れや不安を

持たないように、日ごろの言動にこまかい配慮をする必要のあることを理解してもらうことも望まれます。入園してから起こった問題だけをとりあげるのではなく、起るであろうと予想される問題に対して、子どもと母親と先生が一体になって少しでも問題が起こらないよう努力すること、この三者が一体となって入園という全く新しい事態をのり切るように努力することが望まれます。

以上のように、幼稚園になれにくい子どもは人格特性の一つであるとみなされますので、そのコーピングの強さ、方法はそれぞれの子どもによりまちまちです。したがって、おとなの目からみて、幼稚園になれにくい子どもであるとみなされても、すぐにおとなの判断で問題であるときめつけて、いかに指導すべきであるかを考えるより、もっと気長に、一人一人の子どもを暖かく見守ることの方がより大切になります。

たしかに現実の問題として、集団生活の中にとけこめず泣き出したりする子どもがいれば指導上困ることです。しかし、それは時間ぎめで形式的に保育しようとするところから、より問題であると感じられる場合があります。

少なくとも、子どもが新しい幼稚園の生活になれるまでは、堅く正しい形式にとらわれないで、もっと自由にのびのびと子どもた

ちの姿に即しながら保育がなされていいと思われれます。みんなそろっていつせいに一つの活動をさせようとするところから、子どもに無理がかかってくる場合があります。そのために、子どもの側では子どもなりに新しい状況に対して立ち向かおうと、いっしょうけんめい努力していても、たとえそれがおとなの目から見れば望ましくない方法であっても、その努力がくじけさせられていないことがあるかもしれません。子どものやろうとする努力を認め、それに助力を与えてやることが一番望まれることになります。

「自己洞察力、感情を自分で表現する力、おとなの助けを信用する力、おとなに緊張を伝える力、安定をもたらす方法を伝える力、これらの力は新しい状況になれるのに重要である。……引っこみ思案は次に起こる積極的努力を導き出すコーピングの方法の一種である。」というL・B・マーフィーのことばの意味をもう一度かみしめてみたいと思います。(松阪女子短期大学)

日本保育学会第23回大会予告

会期 昭和45年5月16日(土)・17日(日)

会場 京都女子大学

内容 研究発表・講演・シンポジウム・他

連絡先

京都女子大学
京都市東山区今熊野北日吉町十七